取組概要

背景情報：解決したい社会や行政の課題

ナッジを活用した大腸がん検診の受診率向上の検討において複数のナッジが考案された。しかし、どのナッジを採用することで最も行動変容効果が期待できるのかが不明確であったことから、複数のナッジによる行動変容効果の比較検証を行い、より効果の期待されるナッジを見極めることを目的とした。

課題分析：目標行動を阻害するボトルネック

ペルソナ及び行動プロセスマップを作成し、行動阻害要因及び促進要因を検討した結果、下記の複数の要因を想定した。
阻害要因 検診ハガキの情報量が多く分かりにくい **促進要因** 検診費用には市からの助成があることを強調、多くの人々が検診を受けていることを明示

解決方法：ナッジの概要と活用した行動科学の知見

上記の通り複数想定される要因を考慮し、「①簡素化、②インセンティブ、③社会規範」の3種類のナッジ版検診ハガキを作成した。

実施内容

4種類（ナッジ版3種類 + 従来版1種類）の検診ハガキを対象者に送付し、受診率の違いを比較。

- 【検討期間】 令和5年2月～7月 ※計5回打合せ
- 【対象者数】 2,159人
- 【送付時期】 令和5年10月末
- 【実施期間】 令和5年11月～3月

①簡素化
 検診のお申込みは3STEPで簡単♪
 1 場所をえらぶ
 2 採便容器を取りに行く
 3 自宅で採便し提出
 ②インセンティブ
 福井市の大腸がん検診では物2,000円の割引が受けられます
 ③社会規範
 福井市の40歳以上の方のうち毎年1万人以上が大腸がん検診を受けています
 ④従来版
 毎年、大腸がん検診を受けましょう!

効果測定の手法

ランダム化比較試験
 ※4種類の検診ハガキを対象者に無作為に送り分け、どの程度受診率に差異が生じるかを明らかにする

得られた結果・社会や行政への応用可能性

3種類のナッジの中で「①簡素化」の受診率が最も高い結果となった（①:18.0%,②16.7%,③15.8%,④14.6%）。このことから、複数のナッジの中でより効果の高いナッジを見極めることができた。